

環境活動レポート

平成27年度

(対象期間:平成27年4月～平成28年3月)

平成 28年 5月 25日 発行



リ・パレット株式会社

承認 代表	作成 環境管理 責任者
	
H28.5.25	H28.5.25

1. 会社概要(平成28年4月1日現在)

(1) 会社名

リ・パレット株式会社

(2) 代表者

代表取締役 關 秀一

(3) 役員

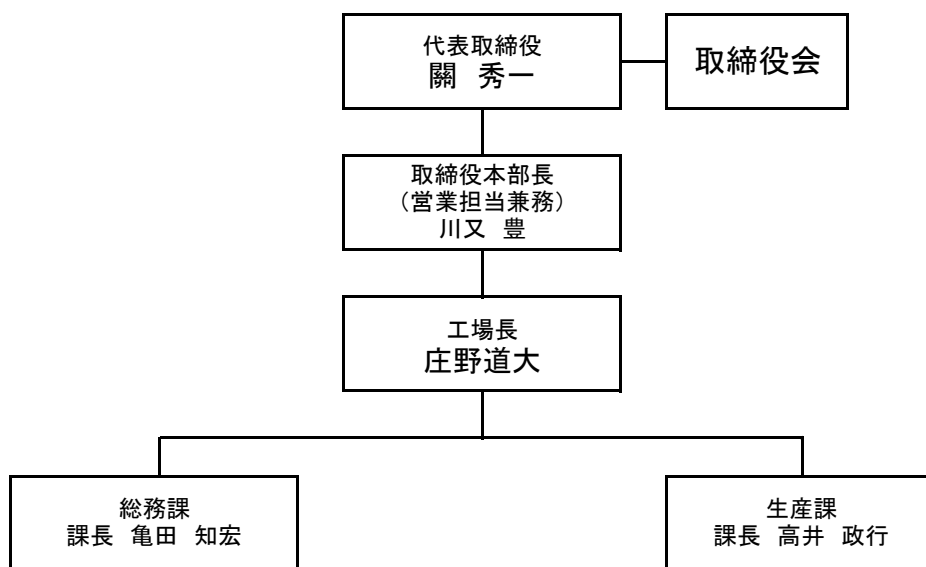
取締役 關 正美

取締役 川又 豊

取締役 高橋 由加

監査役 猪股 敦

(4) 組織図 (平成27年11月1日改正)



(5) 創立

平成17年5月2日

(6) 資本金

5,000万円

(7) 所在地

〒293-0011 千葉県富津市新富87-2

電話 0439-80-1555

FAX 0439-87-1923

Eメール re-pallet@re-pallet.co.jp

(8) 会社履歴

平成17年5月 設立

平成19年4月 操業開始 現在に至る



↑PE・PP混合減容品 ↓パレット



(9) 事業内容

一般廃棄物処理・再生、再生樹脂を原料としたプラスチック成型品の製造と販売

(10) 事業規模

- ① 売上高 670 百万円 (平成27年度)
- ② 従業員 38名 (平成28年4月1日現在)
- ③ 工場棟(事務所を含む) 7,723 m²
- ④ 工場敷地 15,000 m²
- ⑤ 処理能力 プラスチック再生処理能力 76.8t/日(23,424t/年)
(平成27年3月30日 設備改善)

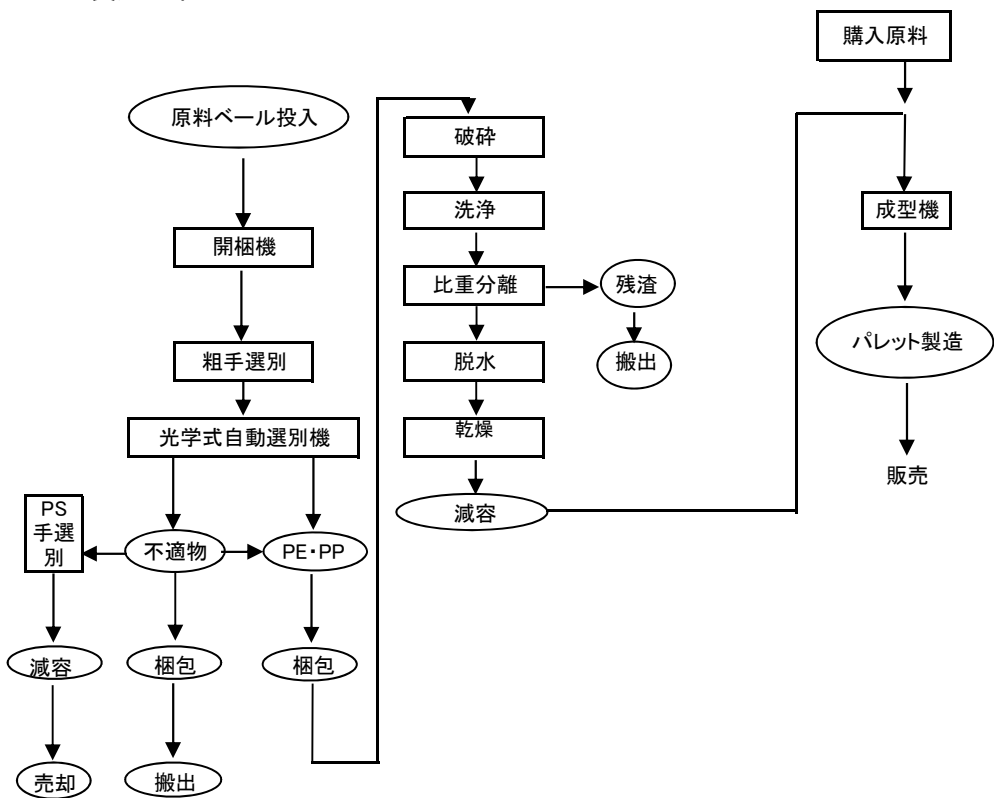
(11) 許可内容

一般廃棄物処理施設の設置許可	千葉県知事許可第17-7号
許可年月日	平成18年3月23日
許可品目	その他プラスチック製容器包装

(12) 保有車両・重機

乗用車	1 台
フォークリフト(電動)	2 台
フォークリフト(軽油)	7 台
2tトラック(軽油)	1 台

(13) 製造工程



(14) 処理実績(平成27年度)

- ①搬入廃プラスチック量 6,319 t
- ②PP・PEフラフ生産量 3170 t
- ③パレット生産量(枚数) 5363 t (296,106 枚)
- ④パレット用原料購入量 2,268 t

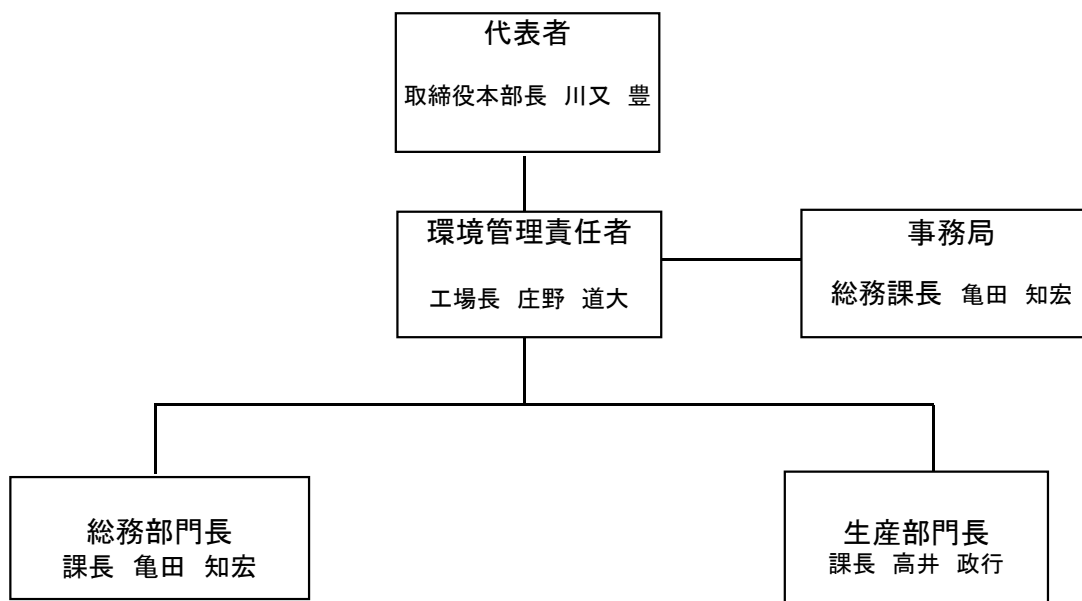
(15) 処理料金

日本容器包装リサイクル協会の委託業務のため、該当しません。

(16) 地域融和活動

工場周辺の清掃や、製品(パレット)および事業活動のPRの実施。

(17) 環境管理組織



(18) エコアクション21 認証範囲

認証・登録範囲 : 0005103

認証・登録年月日 : 2010/06/17

認証・登録事業者名 : リ・パレット株式会社

対象事業所名 : 事務所・工場

所在地 : 千葉県富津市新富87-2

事業活動内容 : 一般廃棄物処理・再生、再生樹脂を原料とした
プラスチック成型品の製造・販売。

(19) 環境関係責任者・担当者および連絡先

責任者 環境管理責任者 : 工場長 庄野道大

担当者 事務局 : 総務課長 亀田 知宏

電話 0439-80-1555

FAX 0439-87-1923

2. 環境方針

環境方針

基本理念

リ・パレット株式会社は、廃プラスチック再生資源化事業者及び廃プラスチックを原料としたパレットの製造事業者として、循環型社会形成の中核を担うべきものと自覚しています。

事業活動にあたっては、全従業員が地域環境、地球環境との関わりを深く認識するとともにEA21環境経営システムを導入し、公害防止、環境保全、継続的な環境負荷の軽減に取り組みます。

基本方針

当社は基本理念のもと、関係法令を遵守し、次の事項を自主的、積極的に取り組むと共に定期的な見直し、システムの継続的な改善に努めます。

1. 受託した廃プラスチックの再資源化と品質の向上、廃棄物の削減に努めます。
2. 当工場で排出する産業廃棄物の再利用等について調査研究に努めます。
3. 機械設備の効率的な稼働に努め、電気、ガス、水等の節減に努めます。
4. 設備の更新、改善はエネルギー消費効率に優れ効率的に使用できるものを採用します。
5. 工場見学者を積極的に受入れ、プラスチック容器等の再資源化等について啓蒙活動に努めます。
6. 事務所でのグリーン購入の推進、電気、ガス、水道、紙の使用節減及び廃棄物の削減等エコオフィス活動を推進します。
7. 社用車、フォークリフトの「エコ安全ドライブ」を推進します。
8. 工場内緑地の環境保全に努めます。
9. 従業員の自転車通勤を奨励し、自転車通勤者を増やします。
10. 4S+1Sを徹底します。
11. 環境方針を全従業員に周知し、その達成に努めます。
12. 環境活動レポートは一般に公開します。



制定：平成22年1月25日
改訂：平成28年4月1日

リ・パレット株式会社
取締役本部長

川又 豊

3. 環境負荷の実績

平成25年度から平成27年度の、環境負荷実績は表-1のとおりです。

表-1 ※表-1内の二酸化炭素排出係数は平成24年1月17日環境省発表平成22年実排出係数0.375kg/kwh(東京電力)を使用

環境への負荷		単位	25年度	26年度	27年度	
①温室効果ガス排出量	二酸化炭素 ※1	kg-CO2	2,455,014	1,696,453	1,898,625	
②受託した一般廃棄物の処理量	収集運搬量	t	8,952	5,099	6319	
	中間処理量	t	8,952	5,099	6288	
	うち再資源化等量	t	4,414	2,549	3170	
	最終処分量	t	0	0	0	
	中間処理後の産廃等の処分量	t	10,445	7,908	8473	
	うち再資源化等量	t	10,445	7,908	8393	
③廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	t	2.06	1.58	1.03
		焼却	t	3.13	3.55	2.32
		最終処分量	t	0	0	0
	産業廃棄物	再生利用	t	4,777	2,763	3313
		焼却	t	232	91	80
		最終処分量	t	0	0	0
④-1総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0	
	下水道	m ³	51,382	47,534	36,735	
④-2水使用量	上水	m ³	501	446	342	
	工業用水	m ³	52,217	48,867	36,682	
	地下水	m ³	0	0	0	
⑤化学物質使用量		kg	0	0	0	
⑥エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	55,853,588	43,838,654	48,826,888	
	化石燃料	MJ	586,343	351,065	526,819	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑦物質使用量	資源使用量	t	10,150	7,769	8576	
	循環資源使用量	t	0	0	0	
⑧サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質量	t	0	0	0	
	水の利用量	m ³	0	0	0	

【 】は必須項目

4. 今後の環境目標と計画(27年度～29年度の中期目標)

基準年より今後3か年の中期目標は次の通りです。

平成27年5月1日改訂

※1 : 電力の二酸化炭素排出係数は平成26年7月18日環境省発表平成25年実排出係数 0.525kg/kWh(東京電力)を使用

項目		基準年 (平成26年度)	中期目標	平成27年度	平成28年度	平成29年度
二酸化炭素の削減(kg-CO2)		2,364,821	4,446,697	2,675,559	4,043,535	4,446,697
投入量 (t)		5,156	10,000	5,893	9,000	10,000
電力節減 (kWh)		削減率	3%	1%	2%	3%
	原単位(kwh/t)	865	839	856	848	839
	使用量	4,459,680	8,390,500	5,046,471	7,629,300	8,390,500
化石燃料	ガソリン (ℓ)	削減率	1%	1%	1%	1%
		使用量	1110	1099	1,099	1,099
	軽油 (ℓ)	削減率	3%	1%	2%	3%
		原単位(L/t)	1.53	1.48	1.51	1.50
	LPガス (m ³)	削減率	1%	1%	1%	1%
		使用量	43	42.6	42.6	42.6
水資源節減	上水 (m ³)	削減率	1%	1%	1%	1%
		使用量	446	442	442	442
	工業用水 (m ³)	削減率	維持	維持	維持	維持
		原単位(m ³ /t)	9.48	9.48	9.48	9.48
	使用量	48,867	94,800	55,866	85,320	94,800
産業廃棄物減 (t)		削減率	3%	1%	2%	3%
	原単位(t/t)	0.56	0.543	0.554	0.549	0.543
	排出量	2,854	5,432	3,267	4,939	5,432
一般廃棄物減 (t)		削減率	維持	維持	維持	維持
	排出量	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
グリーン購入比率		増加率	3.0%	1.0%	2.0%	3.0%
	構成比	75.9%	78.2%	76.7%	77.4%	78.2%

5. 主な環境目標とその実績

(1) 環境目標の設定・実績評価

環境目標は事務所と工場に分けて設定しました。

[事務所]

環境目標	単位	26年度	27年度			実績評価等
		基準値	目標値	実績値	目標値比	
二酸化炭素の削減 (工場分を含む)	kg	1,696,453	2,675,559	2,643,913	99%	連続運転による力率改善が年間を通して100%をほぼ維持できたことが目標達成の結果と思う。次年度も運転効率を意識して生産する。
一般廃棄物の削減	t	5.1	5.1	3.3	65%	分別の徹底が定着していることが削減につながった。次年度も定着維持する。
電力の節減	kWh	-	-	-	-	昨年の6月にデマンドを導入したことにより事務所での電力使用量を把握できるようになったので、次年度は今年度数値をもとに目標を立てて取組みたい。
LPガスの節減	m ³	43	42.6	94	221%	大幅に使用量が増えた要因が分からないので、要因把握つとめ次年度は目標値変更も検討し節減努力する。
社用車両ガソリンの節減	ℓ	454	449	648	144%	今年度は昨年的大幅な未達となった年よりもさらに使用量が増え大幅な未達となった。要因としては、新入社員の受け入れが多く、資格取得の際の社用車利用機会増えたこと。年度末に社用車をハイブリット車に入替えをした。大幅な節減をする。
グリーン購入の推進	構成比	-	75.9%	61.9%	82%	今年度から、目標値を品目数から購入比率にかえた。今年度の実績をもとに比較していきたい。

[工場]

環境目標	単位	26年度	27年度			実績評価等
		基準値	目標値	実績値	目標値比	
電力の節減 (事務所分も含む)	kWh	4,459,680	5,046,471	4,967,130	98%	今年は連続運転による効率化向上より目標達成ができた。上記欄にも記載したとおり、通年力率100%を維持できたことに繋がりが結果として目標を大きく達成できた要因と思われる。次年度以降も連続運転を意識した稼働計画で生産していく。
		※原単位 (kWh/t) 865	856	796	93%	
工業用水の節減	m ³	48,867	48,867	36,682	75%	破碎ラインの立上げ、片肺運転時の使用水量の制御によるライン停止、逆洗機の工水の使用量のトラブルをなくすことが今後の課題と考える。
		※原単位 (m ³ /t) 9.48	9.48	11.65	123%	
産業廃棄物の削減	t	2,854	3,267	3,393	104%	原単位は達成できた。品質の確保と廃棄物の削減は相関関係にあり、バランスを保ちつつ、削減に努める。
		※原単位 (t/t) 0.56	0.554	0.540	97%	
軽油の節減	ℓ	7,897	8,926	12,632	142%	未達要因は、H27.5Iに成型で使用していたバッテリー式リーチフォークが故障しエンジン車に乗りかえた為。H27.12にバッテリー式クランプ車を一台導入した。それにより使用量が下がった。バッテリー車の乗り換えによる影響が大きく数値に出ることから次年度以降環境対策を考慮し積極的に導入していく。
		※原単位 (L/t) 1.53	1.51	1.99	132%	
工場内の 整理・整頓・清掃	○×	実施	○	未達	-	今年度は勤務体制の変更により4Sやメンテナンスを設けることができなかったが、次年度は時間を設け計画的を進めたい。

6.平成27年度の主な環境活動計画の取り組み状況と次年度の取組内容

(1) 事務所

環境目標	取り組み	結果	評価	平成28年度予定
一般廃棄物の削減	①ビン・カン・ペットボトルの分別徹底 (自販機業者の持ち帰り)	○	取組は定着している。	定着しているので平成28年度から日常活動に取り込み環境活動計画から削除する。
	②新聞、雑誌、ダンボールの分別徹底 業者への引渡し	○		
電力の節減 (工場の使用電力量に含む)	①冷房28℃以上、暖房20℃以下に設定	△	軽装であるクールビズの実施が、安全対策の点から実施ができなかった。当面は20℃～28℃にあわせて実施していく。	継続。
	②クールビズ、ウォームビズの励行	×		
LPガスの節減	①用途に適した温度設定 (給湯温度は40℃)	○	今一度使用状況を把握し、削減計画をたてたい。	継続。
	②無駄な使用の抑制	○		
社用車両ガソリンの節減	①急停車・急発進の抑制	○	取組は定着している。	ハイブリット車への移行により、平成28年度からは環境活動計画から削除する。尚、ハイブリット車のエコドライブは実施する。
	②ふんわりアクセルの実施	○		
	③アイドリングストップの実施	○		
	④タイヤ空気圧の定期点検	○		
グリーン購入の推進	①エコマーク商品の購入	○	取組は定着している。	継続。
	②グリーンマーク商品の購入	○		
地域環境保全活動	①工場周辺の清掃	○	勤務体制の変更により、実施時間が設けられなかった。来年度は時間を設け確実に実施する。	継続。

(2) 工場

環境目標	取り組み	結果	評価	平成28年度予定
電力の節減	①生産停止後のダラダラ運転防止(ポンプ、コンプレッサー等)終日	△	新設した取組項目が多く、ほとんど実施定着できなかった。勤務体制の変更により実施できなかった部分も大きい。	継続。
	②制御盤の不使用时ブレーカーオフ	×		
	③回転体巻き清掃(動力負荷低減)	×		
	④ベルトCVの蛇行、脱落等の点検(動力負荷低減)	×		
	⑤Vベルト、CVチェーンの緩み、空滑り等のテンション調整	×		
	⑥工程別換気扇の消し忘れ確認	×		
	⑦空運転(無負荷運転)の防止	△		
工業用水の節減	①運転停止後の出しっぱなしの防止	△	グランドパッキン部の点検は実施できなかったため次年度は取り組めるよう計画時間を作る。また、使用量の節減に大きく反映するような取り組みを検討する。	継続。
	②グランドパッキン部の点検	×		
	③中水使用率引上げ	○		
産業廃棄物の削減	①選別機メンテナンスの実施	○	取組は概ね定着している。	継続。
	②水切りの徹底	○		
	③PACの適正量使用	○		
	④汚泥含水率の低減化	○		
	⑤原料比の適正化	○		
	⑥ダンゴ(樹脂廃棄物)の排出抑制	△		
設備の更新・改善	①工場内及び外灯照明のLED化	×	①～⑤については、実施できた部分とできない部分があったが、次年度も引き続き活動目標とする。⑥については次年度以降取りやめとする。	継続。
	②バッテリーフォーク導入の検討	△		
	③破砕工程流量計の設置	△		
	④比重分離残渣ステーションの移設	×		
	⑤ソーラーパネルの実施	×		
軽油の節減 (フォークリフト)	①急停車・急発進の抑制	○	取組は概ね定着している。	継続。更新時バッテリー車の導入する。
	②ふんわりアクセルの実施	○		
	③アイドリングストップの実施	○		
	④走行距離の短縮	○		
工場内の整理・整頓・清掃	①ペール・フレコンバック・パレット等の適正保管	△	今年度は重複時間が無く、4Sの実施が十分にできなかったことが次年度の課題。	継続。
	②使用後の工具は、工具箱に収納する	△		
	③場内外に散乱した原材料は速やかに回収する	○		
	④4Sの実施	×		
	⑤段ボール、紙袋、可燃物との分別の徹底	△		
	⑥不用機材(渦巻き分離機、梱包機等)の処分	△		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

①次の環境関連法規等の要求事項、遵守状況等を一覧表に取りまとめ確認・評価した。

- ア 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- イ フロン排出抑制法
- ウ 富津市環境条例(騒音規制法、振動規制法)
- エ 計量法
- オ 電気事業法
- カ 富津市火災予防条例(消防法)
- キ 君津富津広域下水道組合 下水道条例
- ク 千葉県工業用水条例(工業用水道事業法)
- ケ 労働安全衛生法
- コ 千葉県自然環境保全条例(緑化協定)
- サ 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)
- シ 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- ス 特定家庭用機器再資源化法(家電リサイクル法)
- セ 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)
- ソ 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(オフロード法)

②遵守状況の確認及び評価の結果等

平成27年12月及び28年3月に遵守状況の確認・評価を行いました。環境法規制等の違反は一切ありませんでした。
なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟等は、過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直し

環境経営計画に基づき、懸案の開梱機、自動選別機、スクリュウプレス脱水機等の設備改善も実施出来、電力の効率化、産業廃棄物の削減効果が把握出来た。また、社用車のハイブリット化も実施した。今後は設備改善に適した環境活動計画を策定し、環境負荷の削減に努める。

